

彙報

第二回総会および研究集会

木簡学会第二回総会と研究集会は、二〇〇〇年二月二・三日の両日に、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一六九人の個人会員、三団体の団体会員が参加して開催された。別室には、平城宮跡・飛鳥池遺跡（以上、奈文研）、平城京跡（奈良市教委。墨書石一点を含む）、宮町遺跡（信楽町教委）出土木簡と、事例報告に関連して、長岡京東院跡（向日市教委）、西河原森ノ内遺跡（中主町教委）から出土した木簡が展示され、併せて新宮神社出土木簡（滋賀県教委）などの写真も出展された。

◇二〇〇〇年二月二日（土）（一三時～一八時）

佐藤宗諄会長の挨拶で開会し、総会と研究集会を開催した。

第二回総会（議長 熊田亮介氏）

会務報告（館野和己委員）

会員の状況（個人会員三三三名、海外会員三名、団体会員四団体、二〇〇一年度新入会員一六名）、学会創立二〇周年記念事業として図録『日本古代木簡選』の続編の編集を進めていること、京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の問題で、六月九日にこの計画の白紙撤

回を求める委員会声明を採択したことなどが報告された。

編集報告（西山良平委員）

『木簡研究』第二二号の編集経過と内容・分量、頒価を五五〇〇円のまま据え置くことなどが報告され、ここ数年三〇〇頁を超える大部なものが続き、編集体制の見直しが課題である旨指摘された。

会計・監査報告（山中敏史委員・岩本次郎監事）

山中委員から一九九九年の決算報告が行なわれ、これに引きつづき、岩本監事から会計が適正に執行されている旨監査報告がなされた。なお、昨年度大会で石上英一監事から提出された未収会費問題や帳簿の作成方法に関する付帯意見についても、的確な対応がなされている旨報告された。次いで、山中委員から二〇〇一年度の予算案が提案された。

以上の案件は全て承認された。

役員改選

会場に立候補を求めた後、岩本次郎氏から提案があり、承認された。総会終了後、会長・副会長互選のための委員会が開かれ、佐藤宗諄会長、鎌田元一・田辺征夫両副会長の留任を決定した。新役員は別表（二四二頁）の通りである。

京奈和自動車道問題についての要望書（和田萃委員）

京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書（案）が和田萃委員から提案され、質疑ののち総会決議として採択

された(二三六頁公告参照)。

研究集会

報告(司会 寺崎保広委員)

敦煌懸泉置遺跡の発掘―漢代の駅と木簡―

何 双全氏(通訳 榎山 明氏)

七世紀木簡の国語史的意義

犬飼 隆氏

何氏の報告は、近年遺物の整理作業が終了した懸泉置遺跡の出土史料から漢代の駅について論じたもの、犬飼氏の報告は、七世紀の木簡から日常普段に読み書き話された古代の日本語を検討したものである。犬飼氏の報告は、本号に掲載することができた。

◇二〇〇〇年一月三日(日)(九時―一五時)

研究集会

報告(司会 榎木謙周委員)

二〇〇〇年全国出土の木簡

山下信一郎氏

長岡京東院跡出土の木簡

清水 みき氏

石川県津幡町加茂遺跡出土の木簡

湯川 善一氏

山下氏の報告は、二〇〇〇年に木簡が出土した九三遺跡の概要と木簡の内容を説明したもので、その多くは本号に掲載することができた。清水氏の報告は、長岡京東院跡出土の木簡について、湯川氏の報告は、加茂遺跡の概要と勝示札を中心とした出土木簡の事例報告であり、ともに本号に掲載することができた。

討論(司会 栄原永遠男委員)

午後に入り、両日の報告について活発な討論が行われた。

最後に田辺征夫副会長の挨拶で大会の日程を終了した。

委員会報告

◇二〇〇〇年二月二日(土)(二〇時三〇分―二二時)

於奈良国立文化財研究所

総会に先立ち、会務・編集・会計・京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書(案)、および総会・研究会の運営についての原案が提案され、審議の上承認された。

◇二〇〇一年六月一日(木)(一四時―一八時三〇分)

於奈良文化財研究所

(1)会務について。二〇〇一・二〇〇二年度の新体制を確認の後、鎌田副会長・山中委員(会計)・西山委員(編集)・館野委員・渡辺委員(事務局)・鶴見幹事・吉川幹事に常任委員を委嘱すること、新たに市大樹氏・竹内亮氏・吉江崇氏に幹事を委嘱することが承認された。会員の異動、幹事会・常任委員会の開催状況について報告された。(2)入会希望者(四名)に関して入会審査がなされた。(3)会計について。二〇〇〇年度決算報告および監査報告が行なわれ、ともに承認された。とくに会誌の販売促進について議論された。(4)編集について。会誌第二三号(担当は西山良平委員、馬場基幹事)の編集経過が報告された。(5)二〇〇二年度開催予定の但馬特別研究集会について。

実行委員会が発足したこと（委員長・鎌田元一副会長、委員・輔老拓治氏（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所）・加賀見省一氏（日高町教育委員会）・小寺誠氏（出石町教育委員会）・今津勝紀氏（岡山大学）・館野和己委員・寺崎保広委員・吉川真司委員・渡辺晃宏委員）が報告され、日程や研究報告などの原案が了承された。(6)第三回総会・研究会の予定について意見が交換された。(7)その他、京奈和道問題の現況、二〇周年記念出版事業の編集経過と会員名簿の作成、奈文研の独立行政法人化に伴なう学会運営の在り方と会誌編集体制の見直しについて、報告及び議論が行なわれた。

◇二〇〇一年一〇月三日（水）（二四時～一六時三〇分）

於奈良文化財研究所

(1)会務について。会員の異動及び、常任委員会・幹事会の開催状況が報告された。(2)入会希望者四名の審査が行なわれ、全員の入会が承認された。(3)会計について。二〇〇一年度の会計中間報告及び二〇〇二年度予算原案の報告があり審議を行なった。(4)会誌第二三三号の編集状況が報告された。(5)第三三回総会・研究会について日程・内容などを決定した。(6)但馬特別研究会について。現地の運営委員会（委員長・大村敬通氏（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所）が組織され、準備を行なっている旨報告があった。(7)二〇周年記念出版事業の進行状況について報告がなされた。(8)「世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムについて、木簡学会も主催・幹事

団体として参加することが報告され、了承された（同シンポジウムの内容については二三八頁会告参照）。(9)その他、古代の銅生産シンポジウム日長登が去る九月に開催され、木簡学会として後援したことが報告された。

（山本 崇）